

# つなプロ避難所アセスメント 第3週(4月11日～4月17日)に関する 分析速報

2011年4月18日



被災地とNPOをつないで支えるプロジェクト(つなプロ)

# つなプロ避難所アセスメントについて

## ■被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)とは

仙台・東京・関西を中心とした全国各地のNPOネットワークとして3月14日に発足した「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト」(つなプロ)は、これまでのべ400人のボランティアを宮城県に派遣し、600か所の避難所を、3月28日から3週に渡って巡回訪問。避難所の実態把握のためのアセスメントを実施している。アセスメントによって判明したニーズや課題を、地域内での支援の取り組みや、介護、医療、障害者・外国人・難病患者支援など専門性を持つNPOとマッチングすることで解決を進めている。600か所の避難所データは、富士通より無償提供されたクラウドシステムによって、提携NPO間で共有されている

## ■データ注意点

・本分析は、第3週(4/11～4/17)分における集計。但し一部分はデータ数確保のため、第1週・第2週分も含めた分析となっている。回答避難所数は230であるが、アセスメントできている避難所数は項目ごとに異なっている(「外国人の有無」をアセスメントできているのは116避難所、「過去一週間の入居者」は46避難所、など)。各項目ごとに、アセスメントできた避難所に限定して分析は行われている

## ■幹事団体

(特)せんだい・みやぎNPOセンター、(般社)ダイバーシティ研究所(DECO)、  
IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]、スペシャルサポートネット(SSN)関西、ETIC.、日本財団

## ■実施スケジュール

- ・3月28日(月)～4月17日(日): 毎週80名程度のボランティアによる、避難所の巡回訪問とアセスメント、  
現地および東京などの支援団体・機関と随時マッチング(3週間)
  - ・4月18日(月)～5月1日(日) : 毎週60名程度のボランティアによる巡回訪問・マッチングの継続と、  
10程度の避難所での継続的な支援(自宅避難者の訪問を含む)を準備
- ※福島・岩手での同様の取り組みも、連携先候補と協議中

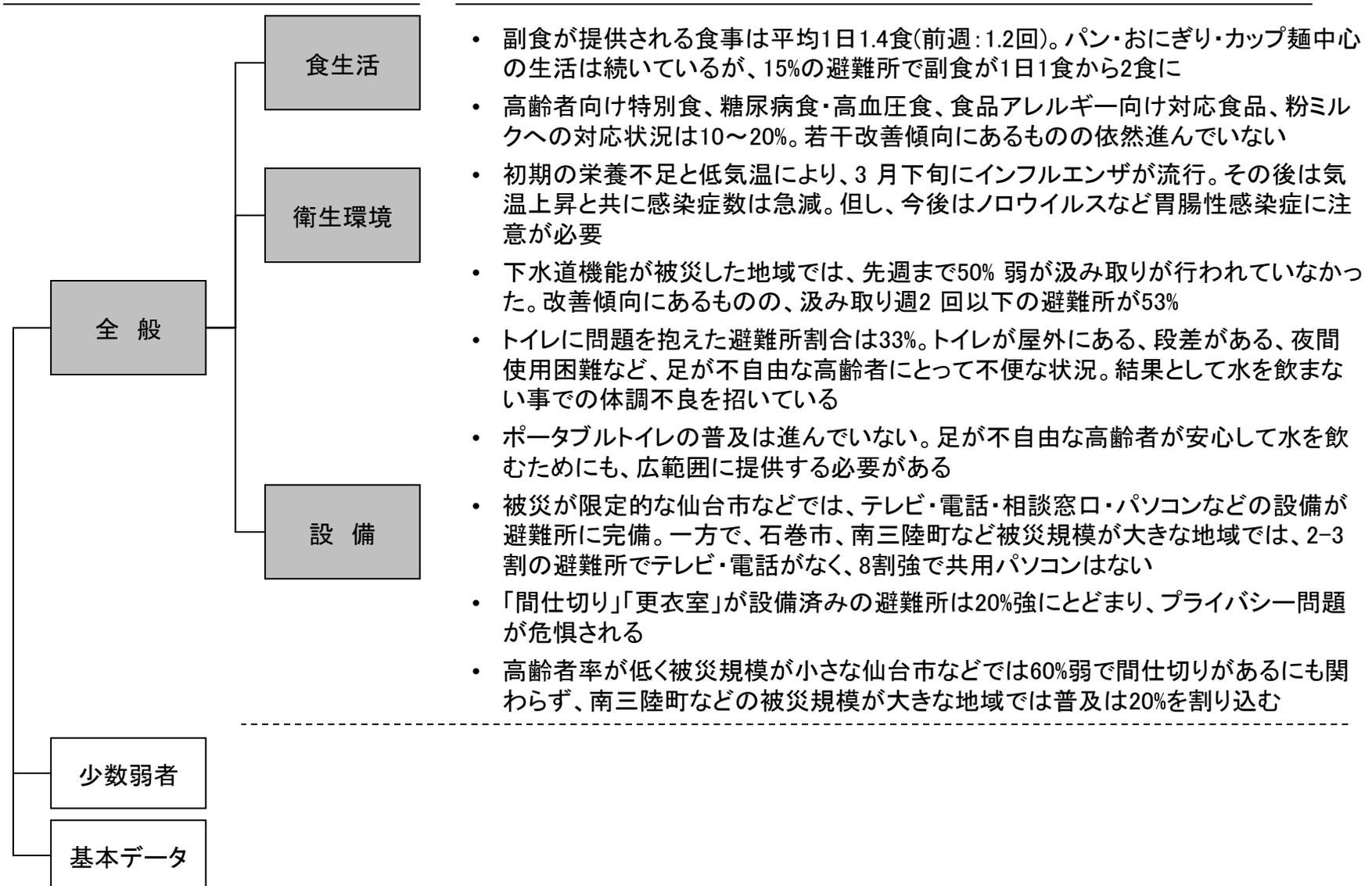
## ■詳細/ウェブサイト <http://blog.canpan.info/tsunapro/>

## ■分析実施 RCF災害支援チーム

# 要約(全般)

## 課題

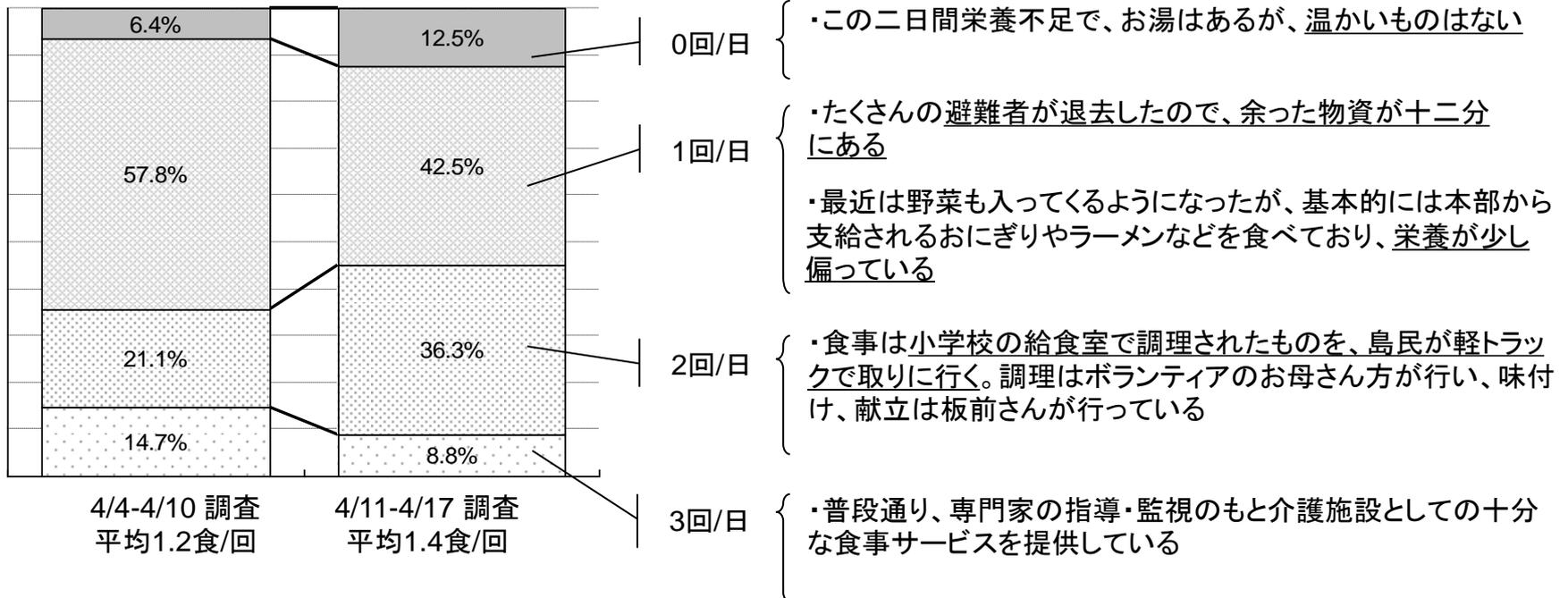
## 要約



- 副食が提供される食事は平均1日1.4食(前週:1.2回)。パン・おにぎり・カップ麺中心の生活は続いているが、15%の避難所で副食が1日1食から2食に

## 副食の提供回数の推移と代表的な避難所の状況

### 副食提供別・代表的な避難所の食事提供状況



— 食事の内容は炭水化物が中心であるが、一部では改善傾向(n=80)

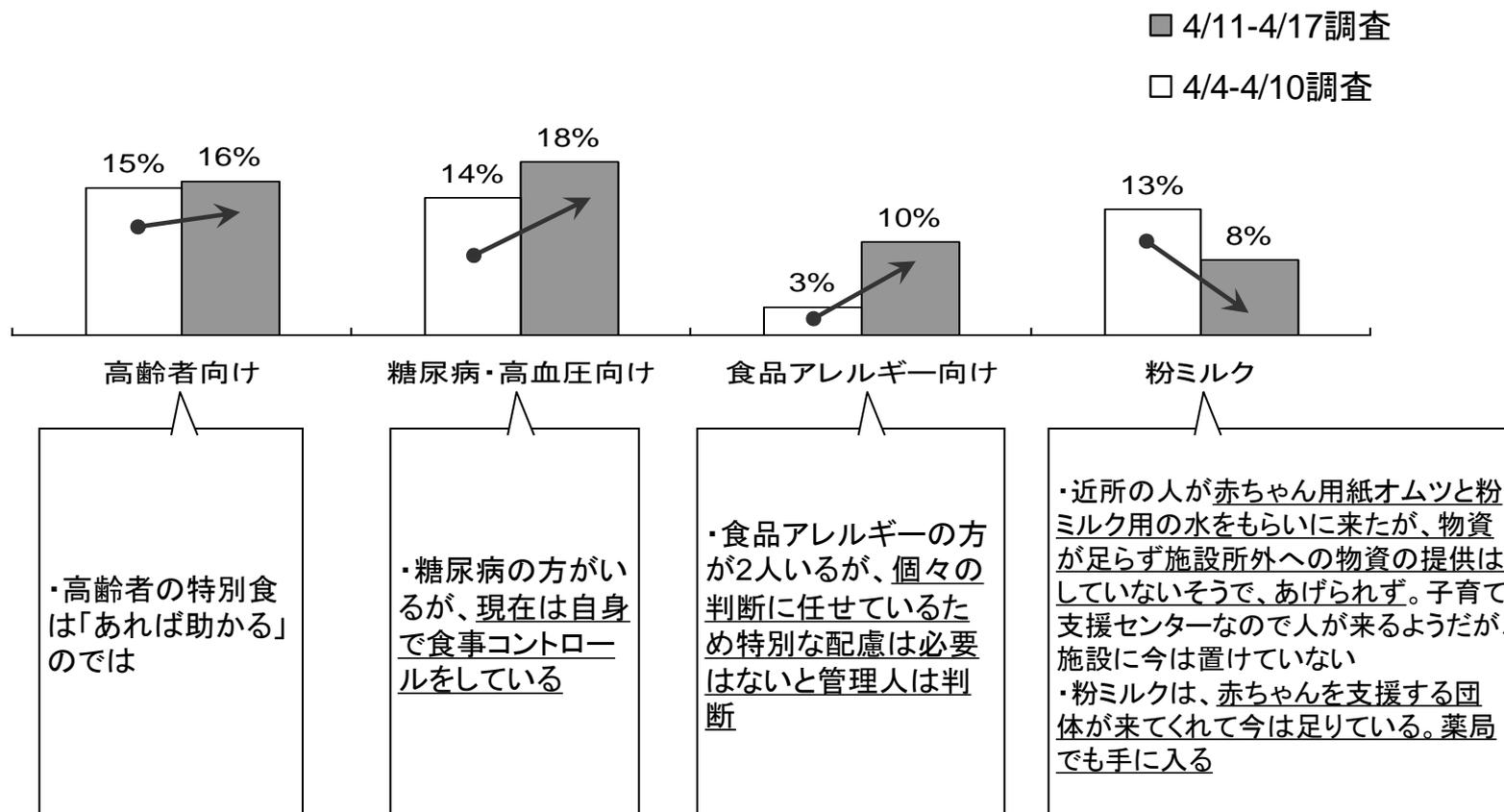
- ・食事はパン・おにぎり・味噌汁・カップ麺のみでおかずや炊き出しの提供が無い避難所: 12.5%(10か所)
- ・1日に1食はおかずのある食事を提供: 42.5% (34か所)、1日に2食以上おかずのある食事を提供: 36.3% (29か所)

資料: つなプロアセスメント調査(4月11日~17日)

注) 調査日前1日の食事内容から集計。おかずのうち、野菜、肉、魚などを調理したものを副食として集計。スープ、味噌汁、インスタント食品、レトルト食品のみでは副食としてカウントせず

- 高齢者向け特別食、糖尿病食・高血圧食、食品アレルギー向け対応食品、粉ミルクへの対応状況は10～20%。若干改善傾向にあるものの依然進んでいない

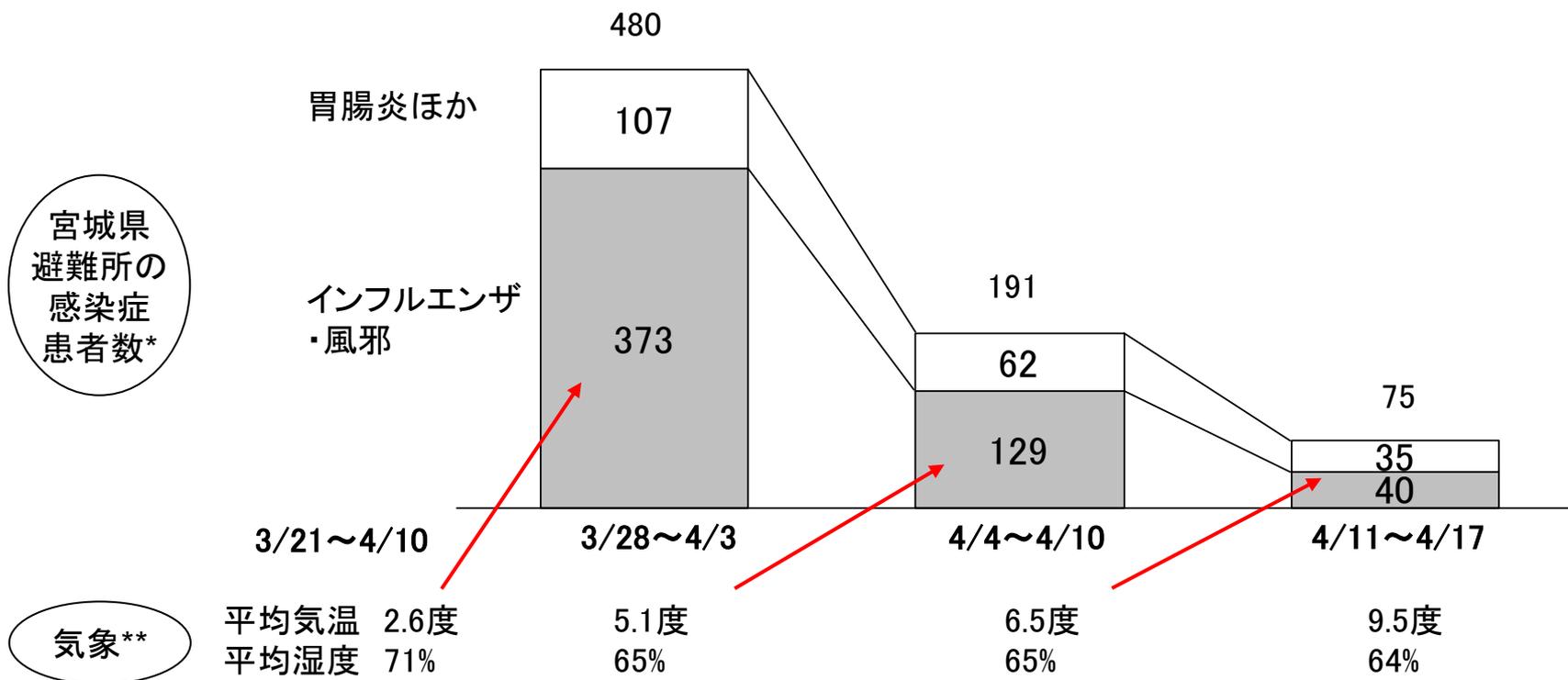
## 個別ニーズ食への対応状況



# 感染症

- 初期の栄養不足と低気温により、3月下旬にインフルエンザが流行。その後は気温上昇と共に感染症数は急減。但し、今後はノロウイルスなど胃腸性感染症に注意が必要

宮城県避難所における感染症患者数推移



\* つなプロ調査より1避難所あたりの平均感染症患者数を算出した後、各週末時点の避難所数に掛けて試算

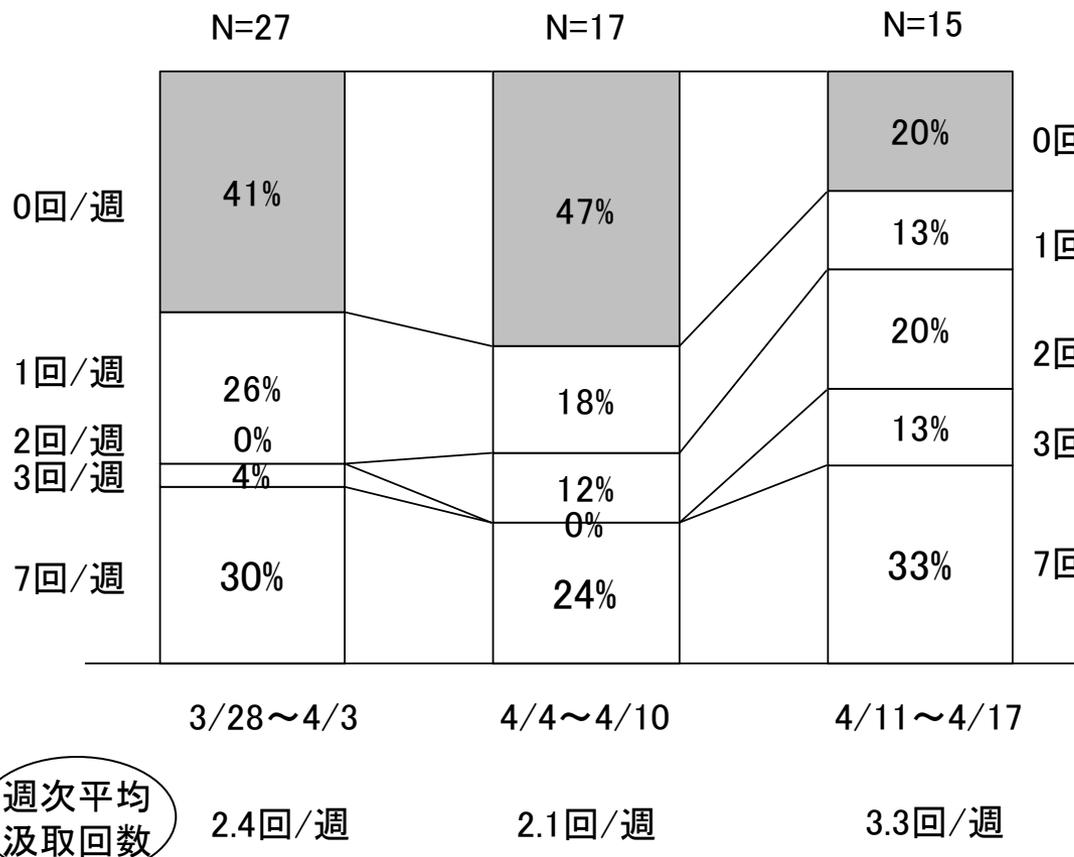
\*\* 石巻市における気温・湿度の一週間平均値

資料: つなプロアセスメント調査(4月11日~17日)

# トイレ 汚物処理

- 下水道機能が被災した地域では、先週まで50%弱で汲み取りが行われていなかった。改善傾向にあるものの、汲み取り週2回以下の避難所が依然53%ある

トイレ・汚物汲み取り状況



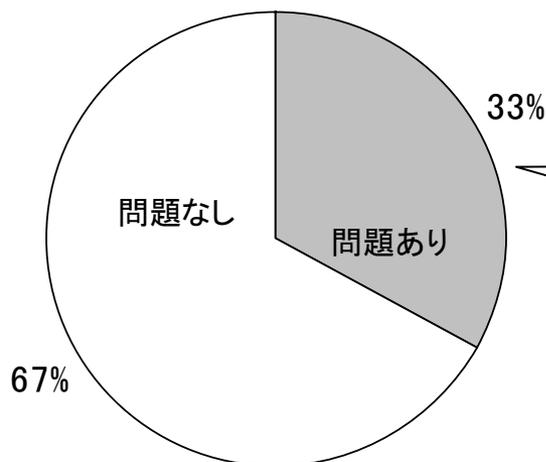
「少なくとも1つは家屋内のトイレ使用可能。震災前と同様に使用。下水機能が正常かは不明。くみとりは未定」  
 「震災直後から仮設トイレを要請しているが来ず、男性は夜明け前に海へ行って用をたす。女性は寝泊まりする家にて」  
 「下水道未復旧のため紙は流せない」  
 「トイレが使用不可のため、畑に穴を掘り用を足している」  
 「室内のトイレは汲み取りが来ないため、詰まっております衛生的にかなり悪い状態である。一度行政に汲み取りを依頼しているが、来てくれないとのこと」

「清潔に保たれている」  
 「清潔に保たれていた」  
 「すごくキレイ」  
 「悪くはない」

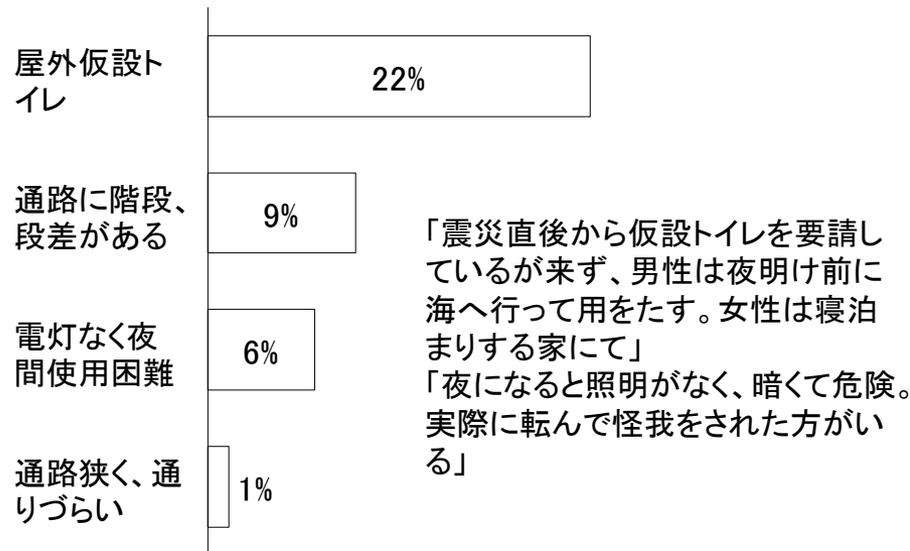
# トイレ 設備・通路

- トイレに問題を抱えた避難所割合は33%。トイレが屋外にある、段差がある、夜間使用困難など、足が不自由な高齢者にとって不便な状況。結果として、水を飲まない事での体調不良を招いている

トイレに問題を抱えた避難所割合(4/11~17)



問題の具体例

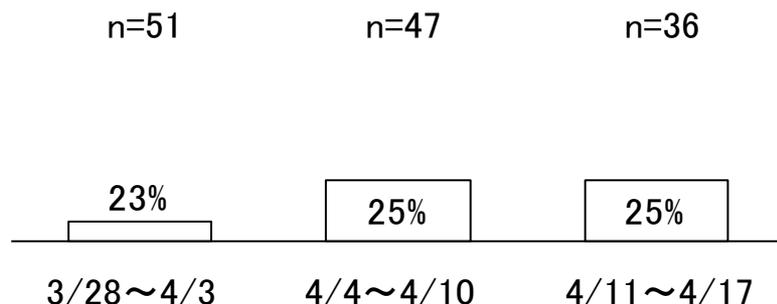


n=81

# トイレ ポータブルトイレ普及状況

- ポータブルトイレの普及は25%と進んでいない。足が不自由な高齢者が安心して水を飲むためにも、広範囲に提供する必要がある

## ポータブルトイレの普及状況



## 定性コメント

「仮設は外にあり、ポータブルトイレは各階にある。  
／ポータブルトイレは、3階にいる足の悪い高齢の方が夜使うためあるが、ルールを守らないで使用する者がいる。ポータブルトイレのない階は段ボールで作った簡易トイレがあるのみ(計3つ)。しかもそれは薄いカーテンで仕切られているのみでカーテンがないところもある」

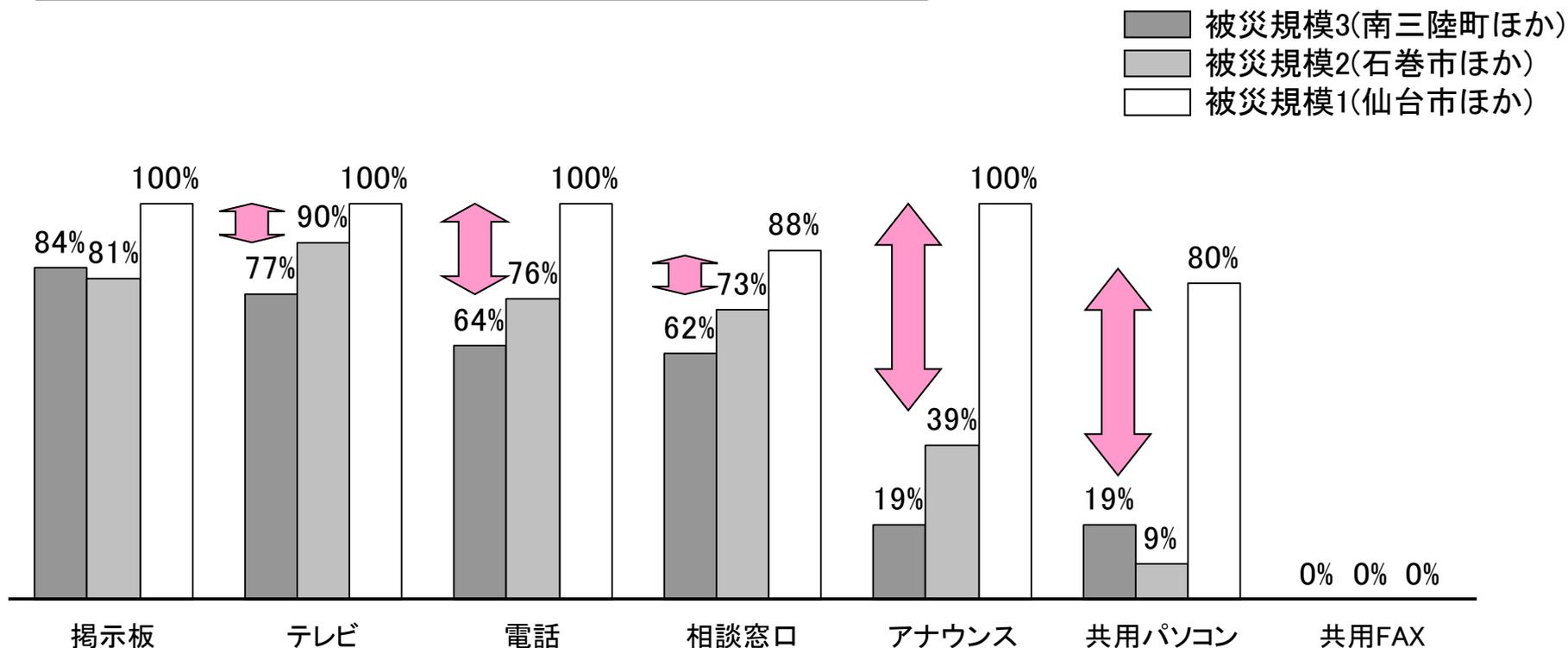
「女性のトイレはポータブルトイレを小さいテントの中に1つ置いている。男性は小便は野外、大便是野外でトイレトペーパーでくるんで燃えるごみと共に焼却」

「テント内にポータブルトイレを1つ置き女性用トイレとして代用している 男性は野でしているらしい」

# 避難所設備

- 被災が限定的な仙台市などでは、テレビ・電話・相談窓口・パソコンなどの設備が避難所に完備。一方で、石巻市、南三陸町など被災規模が大きな地域では、2-3割の避難所でテレビ・電話がなく、8割強で共用パソコンはない

## 避難所設備状況

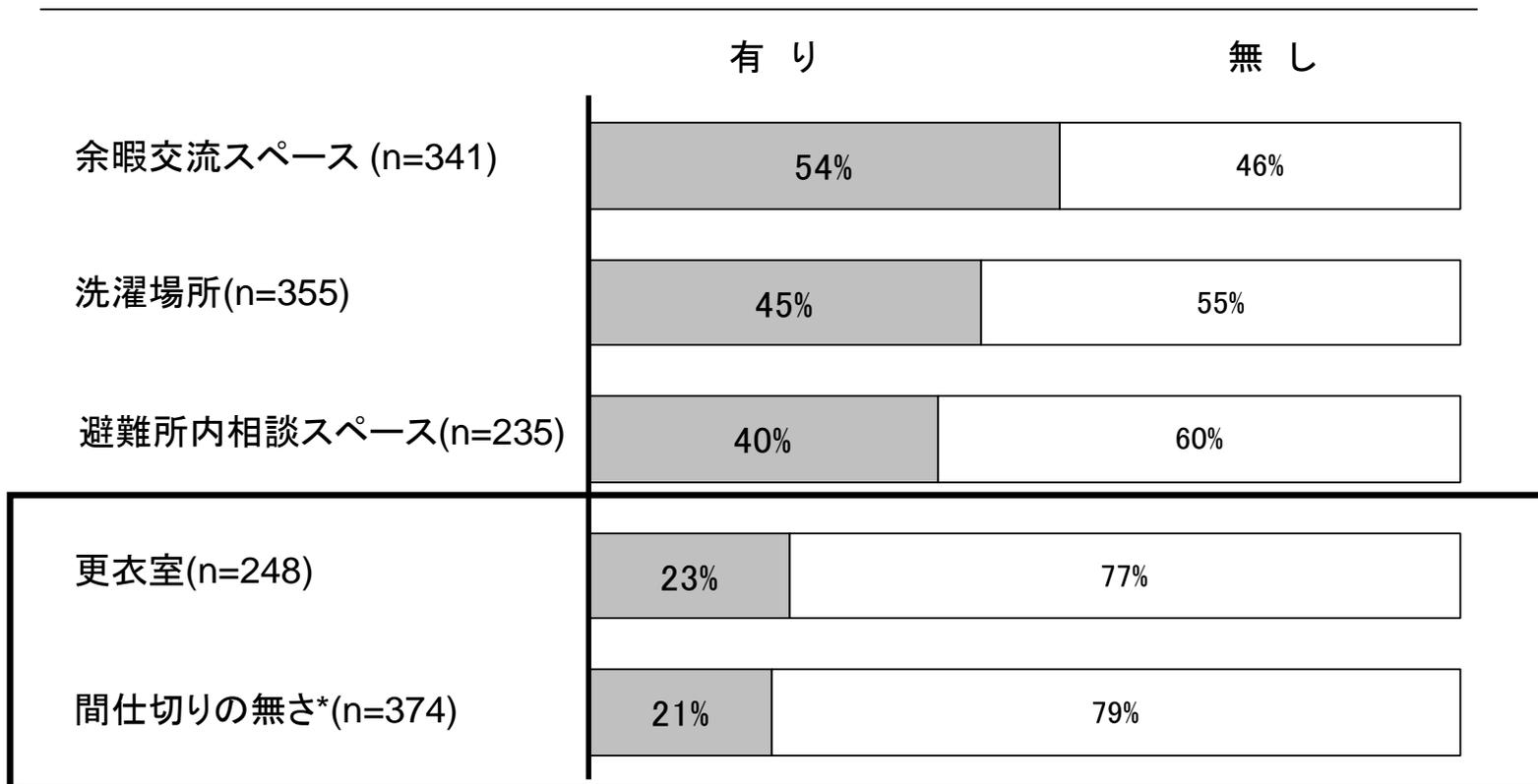


\* 被災規模3:女川町、山元町、気仙沼市、南三陸町。被災規模2:石巻市、東松島市、亶理町、塩釜市。被災規模1:仙台市、名取市、岩沼市、多賀城市  
資料: つなプロアセスメント調査(4月11日~17日)

## 【再掲載】避難所設備

- 「間仕切り」「更衣室」が設備済みの避難所は20%強にとどまり、プライバシー問題が危惧される

### 避難所内施設状況

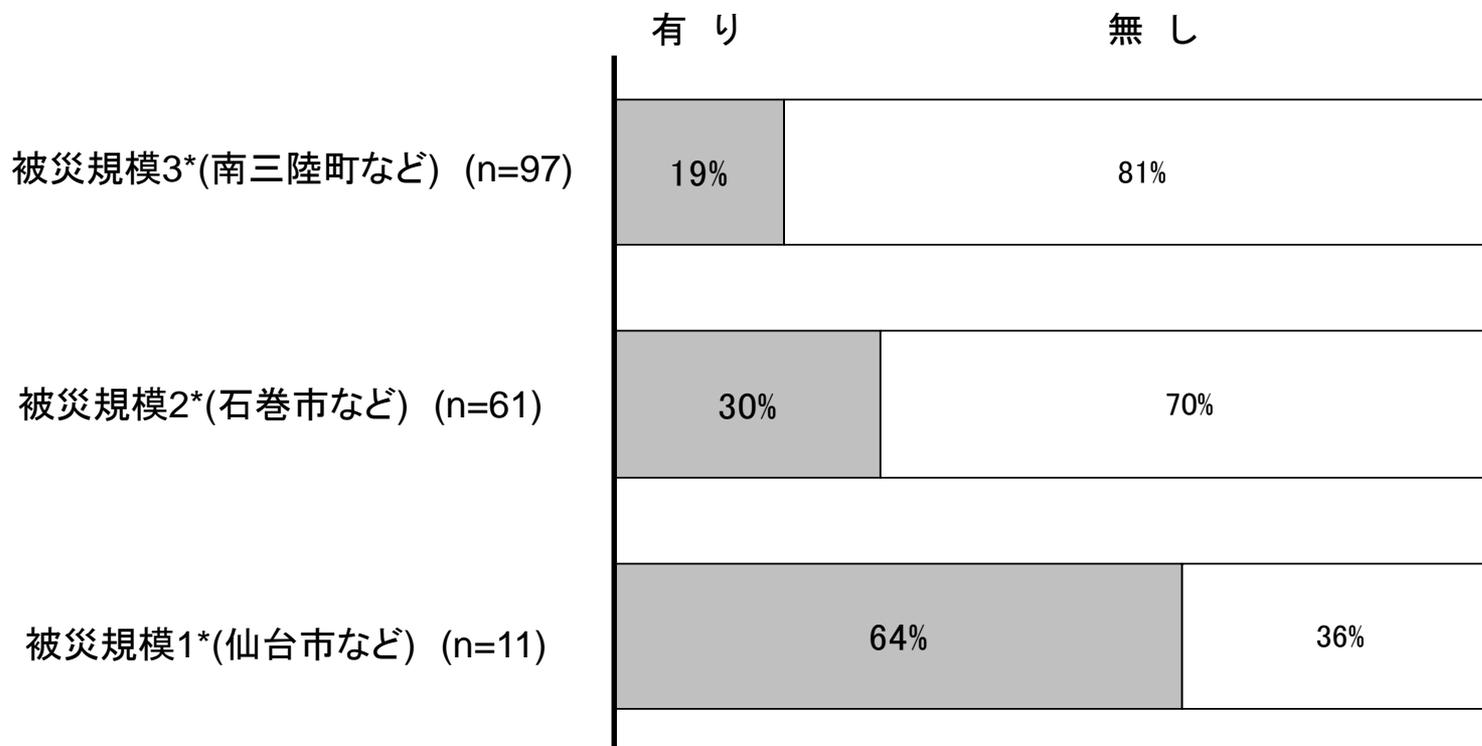


\*間仕切り要望あり。他避難所では間仕切りがない方が安心できるという声もある

# 間仕切りの地域別状況

- 高齢者率が低く被災規模が小さな仙台市などでは60%弱で間仕切りがあるにも関わらず、南三陸町などの被災規模が大きな地域では普及が20%を割り込む

## 被災地域別の間仕切り普及状況

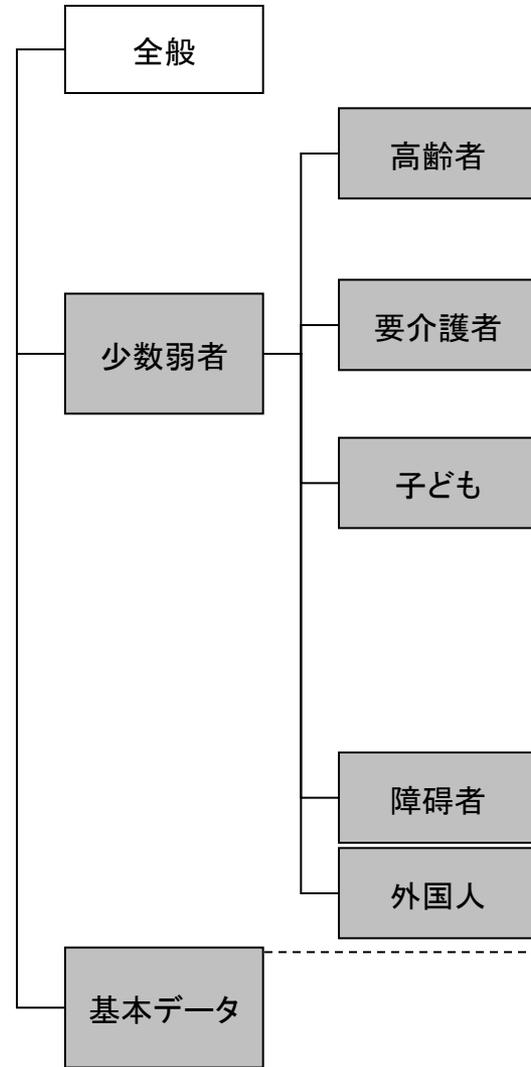


\* 被災規模3:女川町、山元町、気仙沼市、南三陸町。被災規模2:石巻市、東松島市、亘理町、塩釜市。被災規模1:仙台市、名取市、岩沼市、多賀城市  
資料: つなプロアセスメント調査(4月11日~17日)

# 要約(少数弱者・基本データ)

## 課題

## 要約



- 避難所あたりの高齢者(65歳以上)比率は44%と、前週の36%から上昇。高齢化率の高い地域では、避難所の高齢化率も相対高
- 避難所を、高齢者率と避難者数でプロット。人数に関わらず、高齢者比率は0～100%までバラツキがある。避難所によって食事・設備等への配慮は異なるべき
- 要介護者は40%の施設で1人以上滞在(前週:38%)。高齢化率の高い地域では、要介護者が滞在する避難所の比率も相対高
- 要介護者1人以上の避難所のうち、介護向け施設では食事などの配慮がなされている。一般施設では入浴や食事などの介護特有の問題が生じ、配慮不十分
- 18歳未満の避難所生活者は、宮城県のみで5千人弱と推定される。うち新生児は130人、幼児は650人と推計。学校始業の影響もあり、子ども関連の設備・サービスは微減の傾向
- 母子スペースの設置状況を規模別にみると、101人以上では22%に対し、31～50人で3%、30人以下では0%とばらつきがある。幼児を抱えた母子向けの配慮が必要
- 「教育費用・用品の不足」「移動手段の不足」「避難所労働力の不足」といった課題が、4月下旬以降の学校(小中高大)再開に伴い発生。対策の検討が必要
- 宮城県における、避難所における障害者数は600人強と試算。但し、自宅避難している方も相当数おられるとみられ、情報把握およびサポート体制構築が急務
- 三週間の調査を通じて、のべ28か所で128人の外国人被災者を確認。中国人が多い。人数は多くないが、少人数で各避難所に分散している傾向があるため、個別の対応が必要
- 第三期「つなプロ」調査(4/11-4/17)より、セグメント別の避難者数概要を試算。一避難所あたりの「避難者総数」は減少しているものの逓減傾向にあり、「退去者」「被災地外の転居」「病院・福祉施設への移動人数」は減少。避難所からの移動は少なくなっている傾向。一避難所あたりの人数は要介護者2.1人、障害者1.2人

# 高齢者

- 避難所あたりの高齢者(65歳以上)比率は44%と、前週の36%から微増。高齢化率の高い地域では、避難所の高齢化率も相対高

## 避難者数・所在地別 高齢者比率

		平均高齢者比率	n=	
避難者数別	30人以下	39.0%	27	
	31~50人	44.6%	16	
	51~100人	46.9%	17	
	101人以上	47.2%	21	
市町村別	気仙沼市	46.4%	36	
	被害レベル3 (高齢化率・高)	南三陸町	43.7%	11
		山元町・女川町	51.3%	3
		石巻市	39.5%	20
	被害レベル2 (高齢化率・中)	東松島市	44.1%	5
		亶理町・美里町	34.3%	3
		被害レベル1 (高齢化率・低)	名取市・利府町	45.7%
	合計	43.9%	81	

・避難所内の高齢者比率の平均は43.9% (n=81、宮城県内の高齢者数が判明した避難所のみ)

・規模が大きな避難所、高齢化率が高い市町村に所在する避難所では高齢者割合が増加

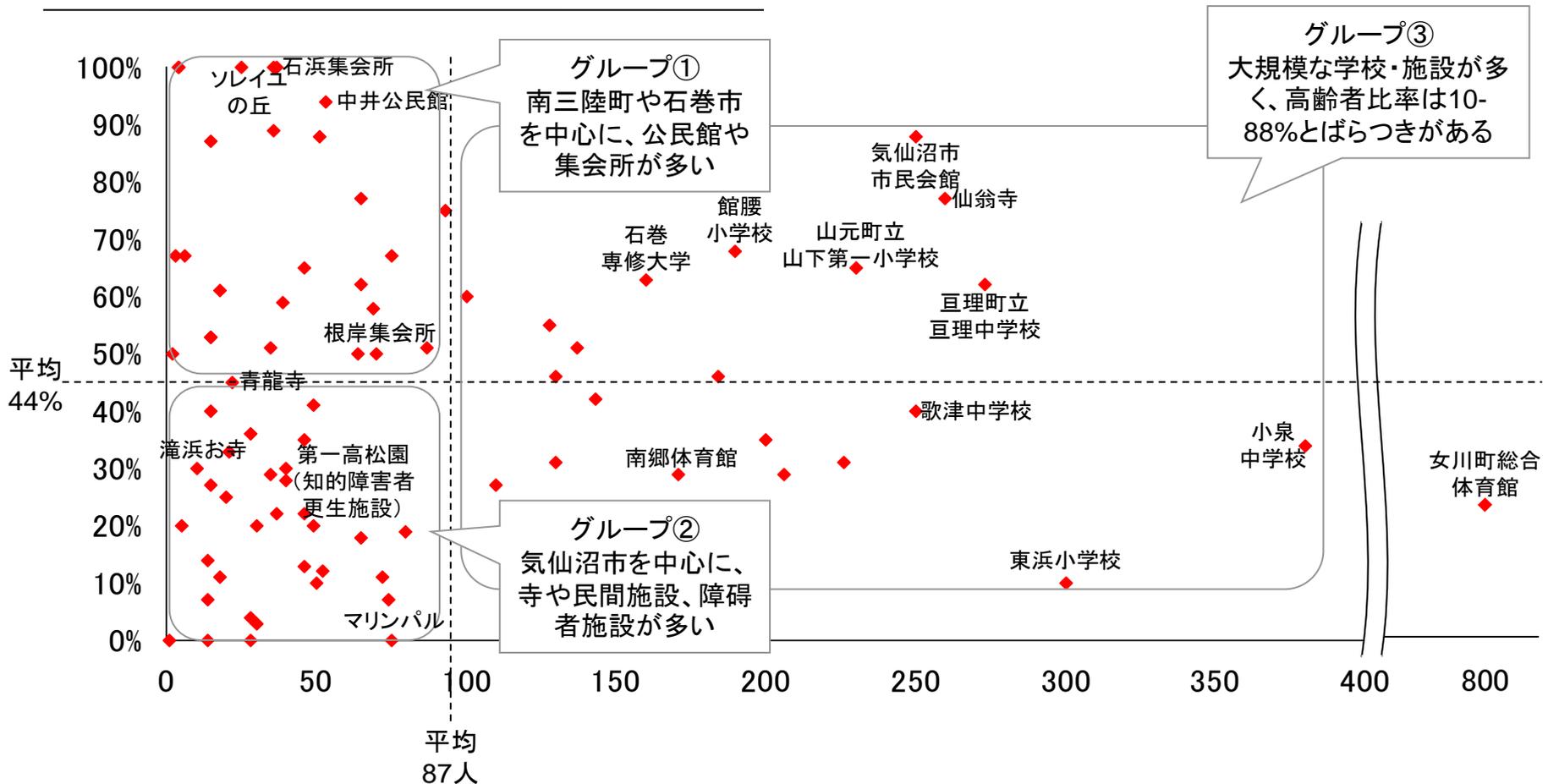
資料: つなプロアセスメント調査(4月11日~17日)

注)避難者数ならびに高齢者数を把握できた避難所のみ集計。高齢化率が高い市町村では避難所の規模が相対的に大きく、女川町では避難者数800人うち480人が、気仙沼市では避難者数380人うち130人が高齢者といった避難所を確認

# 高齢者

- 避難所を、高齢者率と避難者数でプロット。人数に関わらず、高齢者比率は0~100%までバラツキがある。避難所によって食事・設備等への配慮は異なるべき

避難所別・高齢者率 × 避難者数の散布図(4月11日~17日, n=82)



資料: つなプロアセスメント調査(4月11日~17日)

# 要介護者

- 要介護者は40%の施設で1人以上滞在(前週:38%)。高齢化率の高い地域では、要介護者が滞在する避難所の比率も相対高

## 避難者数・所在地別 要介護者が滞在する施設比率

		要介護者が1人以上 滞在する避難所比率	n=	
避難者数別	30人以下	26.5%	34	
	31~50人	44.0%	25	
	51~100人	31.3%	16	
	101人以上	51.9%	27	
市町村別	気仙沼市	40.0%	45	
	被害レベル3 (高齢化率・高)	南三陸町	46.2%	13
		山元町・女川町	25.0%	4
	被害レベル2 (高齢化率・中)	石巻市	27.3%	22
		東松島市	27.3%	11
		亘理町・美里町	100.0%	1
	被害レベル1 (高齢化率・低)	名取市・利府町	100.0%	3
	合計	40.2%	99	

・要介護者が1人以上滞在する比率は40.2% (n=99、宮城県内の要介護者の有無が把握出来た避難所のみ)

・高齢化率が高い市町村では、要介護者が滞在する比率も増加

# 要介護者

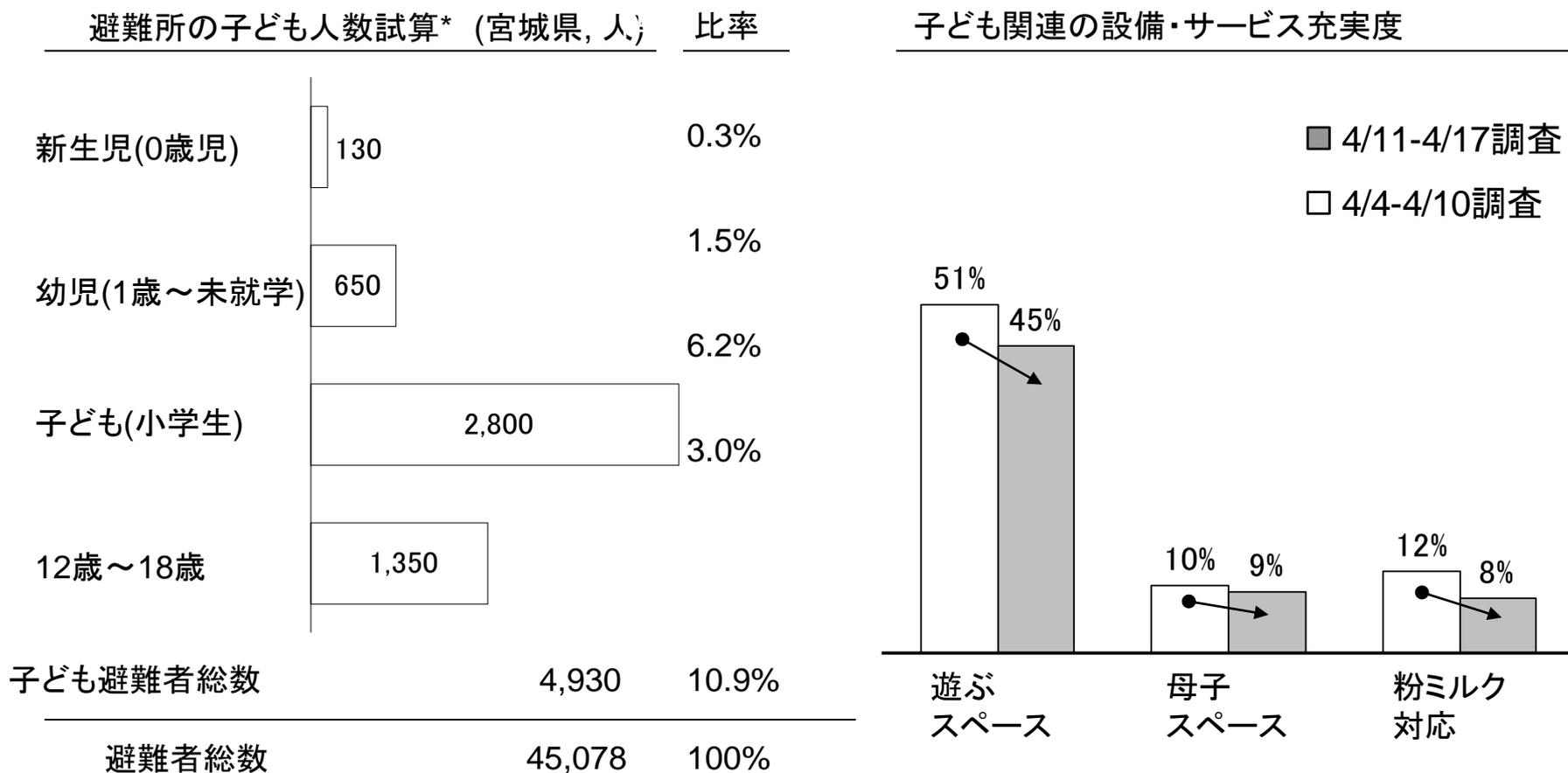
- 要介護者1人以上の避難所のうち、介護向け施設では食事などの配慮がなされている。一般施設では入浴や食事などの介護特有の問題が生じ、配慮不十分

要介護者1人以上の避難所一覧(要介護者数上位20%の8施設のみ記載。種類別・要介護者順)

避難所 エリア	現在の 避難者 総数	高齢者 (65歳以上)	要介 護者	食事備考
介護向け施設				
A市	115		91	栄養バランスのよい食事を提供している。在宅の要介護者には流動食などのメニューがあり、提供している。
A市	25	25	25	高齢者用の介護施設なので、それに対応した野菜中心の食事が出されている。
A市	36	36	13	
B町	13		7	
C市	143	60	5	ヘルパーが1人以上ついている人のみ滞在しているアレルギーは小学生が卵とエビ。普段は平気だがこれから学校が始まるにつれ給食以外の弁当を作る負担になる可能性がある。デイサービスが来週から再開する。元が福祉センターなので筆者は配慮されているように感じた。
学校・避難所・集会施設				
D町	171	50	15	85歳女性が単身避難(見守り必要)、ほか単身者も数人いるが近隣で助け合っている。入浴などに不便のある高齢者が10人はいる(肢体不自由)。15cmほど手前しか見えない視覚障碍の62歳男性がいるが、介護サービスなどを嫌がっている。精神障碍(統合失調症など)で投薬、通院を要する方が若い方～高齢まで5名、通院は一度できたが今後不安あり。
A市	250	220	10	炭水化物が多かったが、現在は野菜なども手に入るようになってきている。高齢者向け特別食(離乳食)はあるが、食べさせる人と食べさせない人の線引きが難しく、対応出来ていない。大塚製薬からゼリーをもらう予定。高齢者の方が多いのでやわらかい物を食べさせてあげたい。
A市	137		8	

# 子ども

- 18歳未満の避難所生活者は、宮城県のみで5千人弱と推定される。うち新生児は130人、幼児は650人と推計。学校始業の影響もあり、子ども関連の設備・サービスは微減の傾向

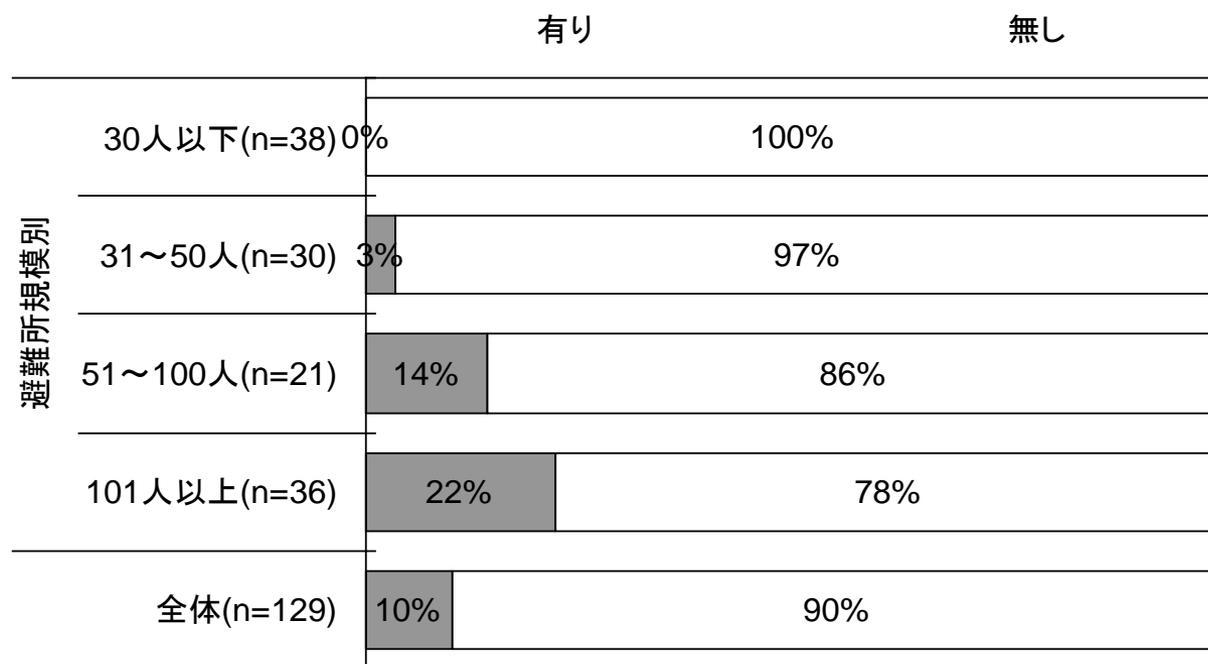


\* 避難者総数(4月17時点、宮城県発表)に対して、比率(n数各100程度)をかけ合わせることで、子ども分類別の対象人数を試算  
 資料: つなプロアセスメント調査(4月11日～17日)

# 子ども 母子スペース

- 母子スペースの設置状況を規模別にみると、101人以上では22%に対し、31～50人で3%、30人以下では0%とばらつきがある。幼児を抱えた母子向けの配慮が必要

## 避難所規模別の母子スペース設置状況



「2歳の子供が泣いたりすることで周りに迷惑がかかるのではないかと、お母さんが心配していた」  
「1人の子供(年齢未確認)がストレスで夜泣きしたり、喚いたりすることがある。対処に困っている。地区体育館なので住居スペースが1つのみで隔離することもできない」  
「赤ちゃんを持つ方は親戚などの家に避難しているため、避難所に残る家族とばらばらになっている」

# 子ども 学校(小中高大)再開に伴う課題

- 「教育費用・用品の不足」「移動手段の不足」「避難所労働力の不足」といった課題が、4月下旬以降の学校(小中高大)再開に伴い発生。対策の検討が必要

課 題	定性コメント
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-right: 20px;">家庭内</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-right: 20px;">教育費用・用品の不足</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-right: 20px;">移動手段の不足</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「通学環境の改善(入学金や大学費用など)が今後求められる」</li> <li>「必要物資:文房具、部活動用具(テニス、野球など)」</li> </ul>
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-right: 20px;">避難所</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;">労働力の不足</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「保育所が始まるので、(保育師の)出張はもうできなくなる」</li> <li>「幼児を含め、子供と遊んでくれるボランティアの方を派遣してほしい。仕事をしながら子供の相手は難しい」</li> <li>「現在のように教職員が支援を支えるのではなく、避難者が避難者だけで生活できる仕組みを作って欲しい」</li> <li>「島の復興作業を若手を中心に行ってきたが、これから職探しや学校が始まるため、瓦礫の撤去作業のような力仕事をできる人材が不足する」</li> </ul>

# 障害者

- 宮城県における、避難所における障害者数は600人強と試算。但し、自宅避難している数も相当数おられるとみられ、情報把握およびサポート体制構築が急務

避難所の障害者数試算（宮城県, 人）	比率	コメント	
肢体不自由	270	0.6%	「介護施設としての機能が回復しつつあるので、50人の障害者が、20人のスタッフのもとで生活している。3日前から他避難所の一部と合併して生活している」  「避難者は全身不随、半身不随の30代・40代とその家族3人。近々、自宅やアパートへ移動予定」  「視覚障害者の人は車中泊。管理側は車中泊を黙認。50代前半で、40代妻と生活。必要な物資などは妻が取りに来る。妻は元気そう」
知的・精神障害	195	0.4%	
視覚障害	78	0.2%	
自閉症・発達障害	41	0.1%	
聴覚障害	31	0.1%	
障害者避難者総数	620	1.4%	
避難者総数	45,078	100%	

\* 避難者総数(4月17時点、宮城県発表)に対して、比率(n数各100程度)をかけ合わせることで、障害分類別の対象人数を試算  
資料: つなプロアセスメント調査(4月11日～17日)

# 外国人

- 三週間の調査を通じて、のべ28か所で128人の外国人被災者を確認。中国人が多い。人数は多くないが、少人数で各避難所に分散している傾向があるため、個別の対応が必要

## 市町村別の外国人被災者

	外国人数	避難所数	国籍内訳	備考
山元町	70人	1か所	中国が多い	簡単な通訳ポスターを使用
気仙沼市	21人	8か所	中国(15人)、韓国、フィリピン(各2人)、他不明	工場で働く中国人研修生
石巻市	21人	10か所	韓国(4人)、フィリピン(3人)、中国(2人)、ボリビア(1人)、他不明	
南三陸町	6人	2か所	中国、他不明	
仙台市	3人	1か所	ネパール(3人)	
登米市	2人	1か所	中国(2人)	
七ヶ浜町、女川町、多賀城市、東松島市、亘理町	各1人	各1か所	中国(1人)、他不明	

# 基本データ(参考)

- 第三期「つなプロ」調査(4/11-4/17)より、セグメント別の避難者数概要を試算。一避難所あたりの「避難者総数」は減少しているものの逓減傾向にあり、「退去者」「被災地外の転居」「病院・福祉施設への移動人数」は減少。避難所からの移動は少なくなっている傾向。一避難所あたりの人数は要介護者2.1人、障害者1.2人

		回答 避難所数*	該当人数 小計*	一避難所あたり 人数(4/16調査)	【参考】 一避難所あたり 人数(4/9調査)	【参考】 一避難所あたり 人数(4/2調査)
基本数	避難者総数	207	20,566	99.4	102.7	168.4
	過去一週間の入居者	46	2,103	45.7	41.4	102.7
	避難所外就寝者数	41	2,192	53.5	36.3	84.9
	退去者数	56	3,299	58.9	152.8	365.3
	自宅に戻った人数	16	468	29.3	27.9	128.1
	被災地外への転居数	12	49	4.1	14.4	8.6
	病院・福祉避難所への移動人数	12	4	0.3	0.8	2.6
年齢別	新生児 0歳児	96	27	0.3	0.2	0.6
	幼児 1～未就学	100	132	1.3	1.4	2.6
	子供 小学生	108	566	5.2	3.8	7.4
	12～18歳	80	273	3.4	3.0	5.4
	高齢者 65歳以上	84	3,491	41.6	30.6	56.6
配慮者	妊婦	114	9	0.1	0.0	0.1
	要介護者	104	223	2.1	2.5	2.2
	アレルギー患者	77	14	0.2	0.2	0.1
	その他要配慮者	65	18	0.3	0.5	0.1
	外国人	116	20	0.2	0.1	0.7
	対応必要な信仰	50	0	0.0	0.0	0.0
障害	障害者総数	121	144	1.2	1.0	2.5
	肢体不自由	89	53	0.6	1.0	1.7
	聴覚障害	73	5	0.1	0.1	1.1
	視覚障害	81	14	0.2	0.1	0.2
	知的精神障害	79	34	0.4	0.6	1.4
	自閉症・発達障害	67	6	0.1	0.1	0.3

・避難所により把握できたデータは異なる。数字は把握できた避難所数と、その避難所における該当小計、この二つの数字から、一避難所あたりの該当数を試算  
資料: つなプロアセスメント調査(4月11日～17日)